

以下の問題文を読んで、次の問いに答えなさい（解答は縦書き。句読点・括弧も一字分として計算する）。

問「一」 傍線部1「新しい公共の世界と市民社会とは、まさにこのような私的領域たる『家族』の構造を前提にしてなりたつものであった」（9頁）の意味を六〇〇字以内でわかりやすく説明しなさい。（五〇点）

問「二」 傍線部2「家族の倫理的可能性」（10頁）という見出しの下で筆者が抱く問題意識を六〇〇字以内で説明しなさい。（五〇点）

〔問題文〕

（問題文略―後掲〔注意〕参照のこと）

〔注意〕

問題文は、杉田孝夫「ドイツ観念論における『家族』観と自由」（日本哲学会編『哲学』第六二号、二〇一一年、所収）の五七頁上段一行目から六九頁下段最終行までを引用した。問題文とするに際して、一部省略し、また表記を改めたところがある。

なお、問「一」にいう問題文の傍線部1「新しい公共の世界と市民社会とは、まさにこのような私的領域たる『家族』の構造を前提にしてなりたつものであった」とは、原文六五頁下段二三行目から二五行目のそれを指している。また、問「二」にいう問題文の傍線部2「家族の倫理的可能性」とは、原文六六頁下段三行目のそれを指している。